

運動習慣は共感性を高めるか – 恐怖感情の伝染について –

人文社会学部人間社会学科心理学教室 3年 山口小百合 (指導教員 北一郎)

目的

ラットを使った実験を通して、
運動習慣の有無によって、
共感性に差が出るかどうかを調べる

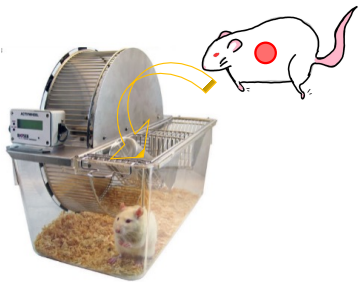
実験動物・実験条件

Wistar/ST 雄ラット 計16匹

- デモンストレーター 8匹
- オブザーバー 8匹 (運動群4匹、非運動群4匹)

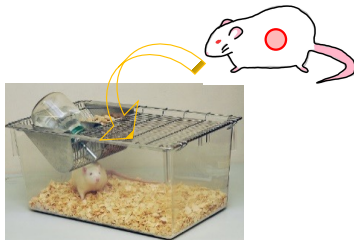
運動群

回転ホイール付きのケージで
1か月飼育



非運動群

普通のケージで
1か月飼育



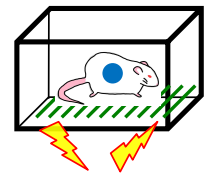
手続き

条件1 (統制条件) オブザーバーのみ

条件2 (統制条件) 恐怖条件づけしていないデモンストレーター×オブザーバー

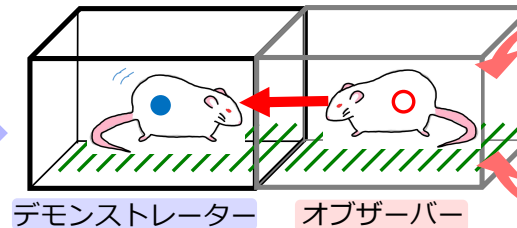
条件3

恐怖条件づけ



フットショック
(0.7 mA, 3 sec/回, 5回)

24時間後



デモンストレーター

オブザーバー

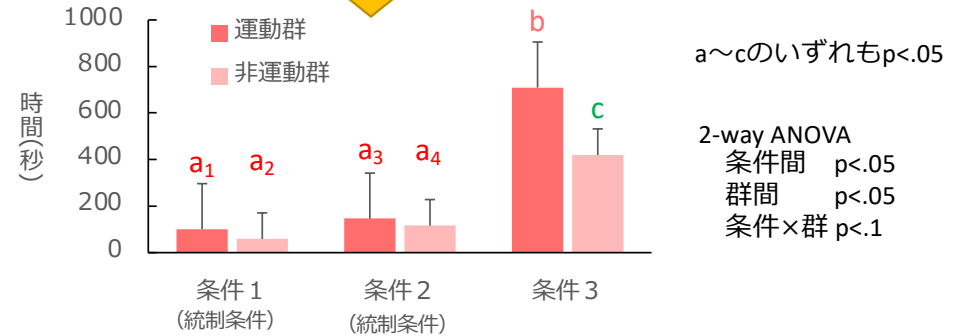
フリージング時間を計測 (20分間)

運動群
1か月間運動

非運動群

普通のケージで1か月間飼育

結果



オブザーバーのフリージング時間は、運動群と非運動群とを比べると、
条件3では運動群の方が非運動群よりも有意にフリージング時間が長かった

結論 運動習慣があることで共感性が高められることが示唆された